

マイクロニクス 過マンガン酸カリウム消費量 (色度・濁度・pH) 自動測定装置

KM300
KMS300

上水試験方法の過マンガン酸カリウム消費量測定は、水質汚濁の指標として重要なものですが、従来手分析によるところが一般的であるため個人差の発生や、測定のみずらわしさが指摘されておりました。マイクロニクス過マンガン酸カリウム消費量自動測定装置KM300は、過マンガン酸カリウム消費量の測定を、水道法に則り忠実に自動化しております。また、オプションとしてあわせて色度、濁度、pHの自動測定が実行できるタイプ(KMS300)もご用意いたしております。



特 長

- ◎ コンパクトな一体型で場所を取りません。
- ◎ 上水試験方法を自動化しているため、完全なデータ互換が行えます。
- ◎ 全自動で煮沸時間のコントロールを行いますので、個人差や検水温度の影響を受けません。
- ◎ ファクター測定も自動で行えます。
- ◎ 試料番号、滴定量、計算結果などがプリントアウトされますのでデータ管理が容易です。
- ◎ 加熱部を二槽式とし処理時間の短縮を行っています。(1検体約7分)
- ◎ 測定後の試料は、自動的に吸引・排出され、三角フラスコを洗浄をする必要がありません。
- ◎ 高い処理能力と低価格で有効な導入効果が得られます。
- ◎ 色度、濁度、PH測定も同時に行えます。(オプション)

仕 様

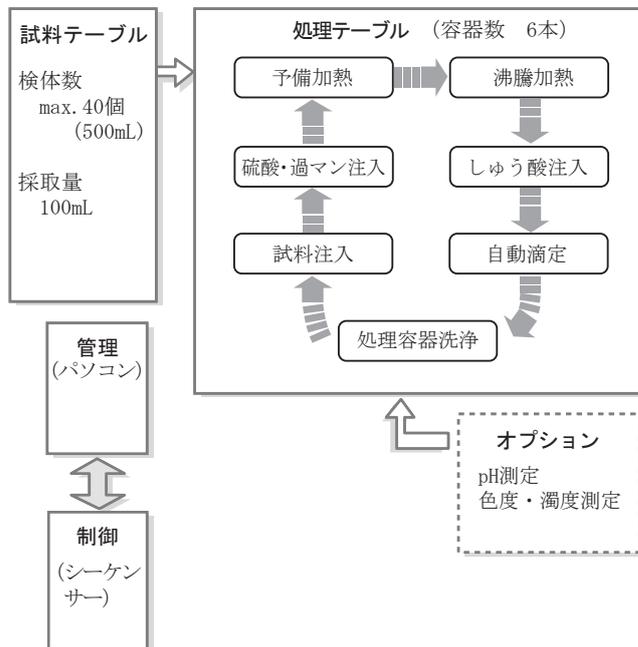
- ・ 試料搭載数 : 40検体 (100検体まで登録可能)
- ・ 試料容器 : 500mL広口ポリ容器
- ・ 処理容器 : 300mL三角フラスコ
- ・ 試料採取方法 : 100mL計量管によるオーバーフロー採取
- ・ 試薬添加 : 5mL専用自動ビューレット (硫酸・過マンガン酸カリウム・しゅう酸)
- ・ 試薬注液精度 : CV 0.5% 以内
- ・ 本加熱方法 : セラミック・ヒーター
- ・ 予備加熱方法 : 熱板式
- ・ 滴定後の排液方法 : ポンプによる吸引排液 (自動)
- ・ 水温センサー : 白金感温体による沸騰時間管理
- ・ 測定方法 : 過マンガン酸カリウムによる電位差滴定
- ・ 制御方法 : シーケンス・コントローラによるプログ
ラム制御
- ・ データ処理 : Windows パソコン
- ・ 電源 : AC100V 50/60Hz 約1.5KW
- ・ 空気圧源 : 0.4Mpa以上
- ・ 本体寸法 : 幅1790×奥行760×高さ1300mm
- ・ オプション : pH測定 測定範囲 0.00~14.00pH
色度測定 測定範囲 0.0~30度
濁度測定 測定範囲 0.00~50度

工 程

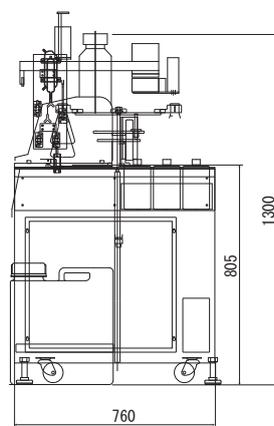
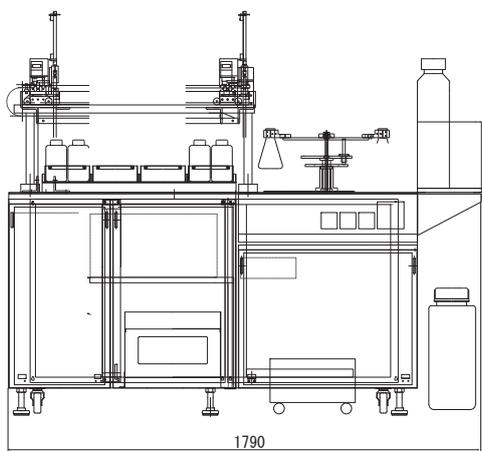
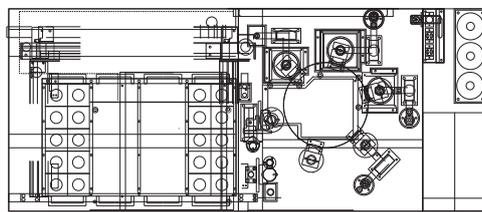
- ① 広口容器に検水を入れて、試料ラックに並べます。
- ② スタートスイッチを押すと、最初の試料が正確に100mL三角フラスコに導入されます。
- ③ 5mLの硫酸(1+2)を注入します、また10mLの0.01N過マンガン酸カリウム溶液の注入を行います。
- ④ スターラー攪拌を行い、予備加熱をします。
- ⑤ 本加熱部で正確に5分間の沸騰加熱を行います。
- ⑥ 0.01Nしゅう酸ナトリウム溶液を10mL注入します。
- ⑦ 0.01N過マンガン酸カリウム溶液による電位差滴定を実行します。
- ⑧ 滴定中は、攪拌と液温保持を行います。
- ⑨ 電極・ノズルを自動洗浄します。
- ⑩ 三角フラスコ内の処理済みの液は吸引排出されます。
- ⑪ 試料番号・滴定量・計算結果などの印字を行います。
- ⑫ これらの動作を連続的に設定された試料数実行します。

構 成

KM300 構成ブロック図



外 形 図



このカタログの内容は、改良のため予告なく変更することがあります。